

焼香

焼香は香をたくことにより、その香氣によつて霊前を清め、故人に別れを告げるという意味があります。弔問や通夜では線香、告別式では抹香というケースが多いようですが、一般的な焼香の作法を取り上げてみました。

■立礼の焼香（抹香）

告別式での一般参列者は大抵、立礼です。

① 自分の順番が来たら、数珠を左手に持ち焼香台手前で、遺族、僧侶に一礼し、遺影をみてから焼香台に進みます。

② 焼香台の抹香を親指・人指し指・中指で

すこしつまみ、目の高さに押しただいてから、香炉のなかに落とします。

③ 合掌をしてから、二、三步下がり、遺族、僧侶に一礼して向きを変え、席に戻ります。

■座礼の焼香（抹香）

① 自分の順番が来たら、中腰になって祭壇近くまで進み、座ってから僧侶、遺族に一礼します。

② 祭壇前まで進んだら、立礼のときと同じように焼香します。

③ 再び両手を付いて、座ったまま体を移動し、遺族、僧侶に一礼してから、静かに席に戻るようにします。

④ 大勢の時は香炉が廻ってくる事もあります。

■線香の供え方

① 祭壇前に進んだら、遺族、僧侶に一礼します。

② 遺影に一礼し、線香を右手で取り上げたら灯明に近づけ、火を付けます。炎を消す場合に息を吹きかけてはいけません。左手で軽く風を送るなどで消します。

③ 煙の立ちのぼっている線香を香炉の中央に立てます。

④ 遺影をみてから合掌します。

⑤ 遺族に一礼してから、席に戻ります。

※線香を複数供える場合は、一緒に火をつけます。

■線香の本数は

供える線香の本数や作法については宗派や

お寺によって意味づけや教えがさまざまですが、一般にはそれほどこだわる必要はなく、



故人を送る心が一番大切です。

■回し焼香

① 前の人、または横から香炉を回されたら軽く礼をして受け取ります。

② 香炉を、自分の正面になるように置きま
す。場所が狭い場合は、膝のうえにおいても構いません。

③ 抹香をつまんで焼香したあと、合掌して
から次の人に回します。

■抹香の回数

抹香をたく回数は、宗派や意味づけによつて、一回・二回・三回と異なりますが、回数にこだわる必要はないでしょう。ただし、焼香者が多いときは、司会や係員の指示に従う

ようにします。

■数珠の扱い方

数珠は宗派によって、少しずつ異なりますが、違う宗派の葬儀に持参してもよいとされます。持つときは左手に掛けておき、合掌する際は掛けたまま、あるいは両手を通して合掌します。

■焼香のマナー

焼香の際は、コートやマフラーをつけないのが、正式です。席があるならハンドバッグは置きますが、無い場合は腕にかけたまま焼香してもかまいません。メモリアルホールでは台の下側に置ける焼香台を使っております。